

調査報告概要表

作成日 2008年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム 昭ちゃんの家
所在地 (電話番号)	志布志市有明町蓬原554-6 (電話) 099-475-2224

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年8月27日

【情報提供票より】(20年 7月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 28日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独) (新築) / 改築
建物構造	木造平屋 造り 階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	277 円	昼食	277 円
	夕食	277 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 28日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低 77 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みやじクリニック・しんどう歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

立地は田園地帯の一角に位置し、床材に竹を使用し、大きな窓や吹き抜けからの自然光が豊かで明るくゆったりとした造りとなっている。玄関を入ると設立者である理事長の気持ちが伝わってくる雰囲気があり、地域のなかでは、グループホームが核となり地域で入居者を支援していく体制がとられ、明るく楽しい入居生活が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	課題については概ね改善されているが、市町村との連携については、地区のグループホーム連絡協議会等の設立が計画され、取り組みに期待がもてる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、評価の意義について理解しており、自己評価もホーム全体で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域住民の代表や市の担当者が参加され、取り組み内容、調査結果等を話し合っている。事前に依頼文書を送付し、案件を聞き出すなどして、運営推進会議を有効に活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日ごろから職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気を作るために、家族会の際はもとより、訪問時の会話の中から要望や苦情をくみ取るよう努めている。出された要望や苦情を職員で改善にむけて話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ゲートボール場の開放や夏休みのラジオ体操では、ホームが開放され、地域の核として地域との付き合いがおこなわれている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が安心して生活できる家づくりを目指して、地域と密着したホーム作りを理念としている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和している。理念に基づき利用者への支援を実践し、随時職員会議で検討している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ゲートボール場の開放や夏休みのラジオ体操では、ホームが開放され、地域の核として地域との付き合いを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題への取り組みも計画的に行っており、課題については概ね改善されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の代表や市の担当者が参加され、取り組み内容、調査結果等を話し合っている。事前に依頼文書を送付し、案件を聞き出すなどして運営推進会議を有効に活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらう等の声かけを行っているが、それ以外の行き来が十分でないように思われる。	○	地区のグループホーム連絡協議会等が計画され、取り組みに期待がもてる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理は、毎月のお便りや訪問時などで報告されており、個々にあわせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気を作るために、家族会の際はもとより、訪問時の会話の中から要望や苦情をくみ取るよう努めている。出された要望や苦情を職員で改善にむけて話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は利用者に説明している。また混乱を防ぎ、引継ぎを十分に行いスムーズに移行することで、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画の中に、経験年数に応じた職員向けの研修を取り入れている。職員会議や申し送りの中で、研修報告を行うことで職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区のグループホームで相互に研修等が行われており、職員が研修会・交流会へ参加し、相互に支援あっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には、スタッフが出向いて顔なじみの関係を作るような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えをスタッフ全体が共有し、色々な場面で利用者に助言をもらいながら、調理準備・草むしり・ゴミ拾い・洗濯物たたみを職員とともに行う中で、ともに過ごす関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族へのお便りの中や家族会の中で家族と話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画作成をしている。職員の気づき、家族の意見の確認は、介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行っている。毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、評価は3ヶ月に一度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎朝、院長が利用者の健康状態を確認し、電気治療機を配置し、健康に配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、通院介助の対応がなされ、利用者及び家族の希望を大切に、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針をサービス利用開始時に家族に説明し、同意をもらっている。また、家族にニーズ調査を行い、職員で情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中で、利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけている。さらに申し送り時や職場内研修等でその都度確認し、研修しやすいようにマニュアルで明記し、職員に配布している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者と相談し、買い物・調理・片付けなど能力に応じてしてもらい、職員も同じ食事を同じテーブルでとることで、和やかな雰囲気の中、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴を拒まれる場合は、時間をあけて誘ったり、誘い方を工夫したりして気持ちよく入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、家事や趣味を楽しんだり、お手伝いをするなどでそれぞれの役割を見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や天候に応じて食事の買い物や散歩など日常的に屋外に出るほか、花をプランタに植えたり、地域の清掃活動、地域行事等への参加を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ベランダ・玄関をはじめ、各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は利用者の状態を把握し、外出傾向がある場合はさりげなく一緒に散歩に出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を行っており、消防関係者や地域住民の協力を得て、地域の自治会の中での訓練として位置づけられている。災害時に必要とされる備蓄の管理もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士からアドバイスをもらっている。水分、食事摂取量を個人ごとに記録し、スタッフ全員で把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっており、窓は大きく、天井も高く、過ごしやすい造りになっている。利用者は、和室やソファなど思い思いの場所でくつろいでいるが、玄関横の廊下の行き止まりに余剰のベッドがある。	○	建物等はよく整備され、利用者が過ごしやすい雰囲気をつくりだそうとしているが、余剰のベッドを片付ける等、細かい配慮をしていただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、花・鉢・カレンダー・時計・手紙などを配置し、その人らしく過ごせるよう配慮している。		